

主 題：クリスチャンとは 一神の子どもとされた者—

聖書箇所：ヨハネの福音書1章11-13節/ヨハネの手紙第一3章9-10節

きょう学ぼうとしているのは、「クリスチャンとは」の3回目です。「クリスチャンとは神の子どもとされた者」というテーマで、ともにみことばを学んでいきたいと思っています。私たちは過去2回クリスチャンとはどのような特徴を持った者たちなのかを学んできました。1回目に「クリスチャンとは神によって選ばれた者たち」であるということのエペソ1：4-5を通して学びました。その時、私たちが理解したことは、クリスチャンということばの意味でした。それはキリストに属する者たちのことを意味していました。そして神は私たちを世界の基の置かれる前から選んでいたということを知りました。キリストの贖いを通して、キリストにつながる者として選ばれていたのです。そして私たちが聖い生き方をする者、また神の求める正しい生き方をする者としても選ばれていたということを知りました。2回目には「クリスチャンとは神によって救われた者たち」だということローマ6：15-18を通して学びました。私たちは救われる以前は罪の奴隷でした。サタンに従う者だったのです。その時私たちは、的外れな生き方をしていました。神に敵対し、神を無視して、ただ自分の欲のままに生きていたのです。そのような私たちを恵みによって、イエス・キリストの贖いのみわざによって救っていただきました。私たちは神の奴隷として、主イエス・キリストに従って生きる者となったのです。罪の奴隷から、罪の支配から解放されて、神の奴隷として、主イエス・キリストに従って生きる者となったのです。

さて、神によって選ばれ、救われた私たちは神の恵みを受けた者として、どのような立場の者になったのでしょうか。きょうはそのことを一緒に学んでいきたいと思っています。テキストはヨハネ1：11-13です。

ヨハネ1：11-13

「：11 この方はご自分のくんに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。：12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。：13 この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」

1. この方を受け入れなかった人々 11節

12節を見てもみますと、「しかし」ということばで始まっています。それは11節と異なる人々について述べようとしているからです。11節では、このように光として来られたイエス・キリストを受け入れなかった人々について述べられています。11節を見ると、「この方」とは、ことばであるイエス・キリストを指しています。そしてイエス様は「ご自分のくんに来られた」と書かれてあります。イエス様はユダヤ人としてお生まれになりました。お父さんはヨセフ、お母さんはマリヤでした。しかし、その誕生は私たちとは異質のもので、聖霊の働きによる超自然的なものでした。私たち人間の理解を超えた処女降誕という奇跡でした。ルカ1：35に「御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」と書かれてあります。またイエス様はベツレヘムでお生まれになりました。ルカ2：11「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」、確かにイエス様はご自分の国に来られたのです。イエス様は歴史の中で、特定の民族のひとりとして人間社会に現れるために、神は旧約時代にイスラエル民族を選び、彼らに神ご自身を啓示し、また救いの計画を明らかにされました。そして、時至ってイエス様は人となってこの世に来られたのです。「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」、ミカ5：2です。

しかし、ご存じのように、みことばから教えられているとおり、イスラエルの人々はそのようなイエス様を受け入れませんでした。彼らはバプテスマのヨハネが「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」（ヨハネ 1 : 29）と叫んだ救い主イエス・キリストを拒み、十字架に架けました。ヨハネ 19 : 17-19 にこう書かれてあります。「17 彼らはイエスを受け取った。そして、イエスはご自分で十字架を負って、「どくろの地」という場所（ヘブル語でゴルゴタと言われる）に出て行かれた。18 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真ん中にしてであった。19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」と書いてあった。」、これがイスラエルの民の姿でした。

2. この方を受け入れた人々 12 節

私たちの周りの多くの人々が、イエス・キリストを拒み続けているという状態は今も続いています。私たちもかつては、このイエス・キリストを拒んで生きていました。そのような私たちは拒み続けることをある時、主の導きによってやめたのです、きょうのテキストの 12 節を見ると、先ほども言いましたが、「しかし」という接続詞で始まっています。それは 11 節とは異なる人々について述べているからです。この 12 節で書かれている「この方」も「その名」もイエス・キリストを指しています。そしてこの 12 節で注意していただきたい動詞が二つあります。それは「受け入れる」という動詞と「信じる」という動詞です。ここでこの二つの動詞は同じ意味を持つことばとして使われています。その意味は「全幅の信頼を寄せる」、また「すべてを任せる」という意味を持っています。イエス・キリストを受け入れ、彼に全幅の信頼を寄せる人々には神の子どもという特権が与えられました。イエス・キリストを信じる者には恵みによって神の子どもとしての身分が与えられたのです。それは生まれつきの人間とは異なる存在となったということです。霊的に新しく生まれ、サタンに従う者からイエス・キリストに従う者とされたということです。生まれながらの人間は神の子どもではありません。

パウロは II コリント 2 : 14 でこう言います。「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。」と。生まれながらの人間は神の子どもではありません。12 節の後半に、「神の子どもとされる特権をお与えになった」と書かれてあります。「特権」ということばが出てきます。使われているこのギリシャ語の意味は「権利」という意味を持ったことばが使われています。このことばはほかにも使われているのですが、ヨハネ 19 : 10 でも使われています。そこでは「権威」という日本語に訳されています。「権威」というのはピラトが持っていた権威のことです。この 1 : 12 で使われている「特権」の意味は、イエス・キリストを受け入れた結果として、神との新しい関係、また正しい関係に入ること、それは神の家族の一員となる特別の権利が与えられる、また、与えられたということです。

3. 「神の子ども」の誕生に働いた力 13 節

そして、ヨハネは 13 節で、神の子どもの誕生に働いた力についても述べています。「この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」、この 13 節には神の子どもの誕生の否定的な事実がまず二つ記されています。

1) 否定的な事実

a. 「血によってではなく」

まず一つ目は、「血によってではなく」と書かれてあります。この意味を、ノックスという神学者は「人間の家系からではなく」と説明していました。ということは、神の子どもになるということには、人間的なつながりが全くないということです。肉親がクリスチャンだから、その子どもも自動的にクリスチャンになるのではないということです。人間的な関係を否定したものです。これが否定的な事実の一つ「血によってではなく」です。

b. 「肉の欲求や人の意欲によってでもなく」

二つ目は、「肉の欲求や人の意欲によってでもなく」と書かれてあります。2017年度版の聖書をお持ちの方は、「肉の望むところでも人の意志によってでもなく」と書かれてあると思います。神の子どもの誕生、それは人間的な力が働いた肉的な誕生ではないということです。このことの注解をウィリアム・バークレーはこのように述べていました。「神の子になるということは、いかなる人間の衝動や欲望にも、あるいは人間の意志からでた行為にも由来するものではない。それは全く神から来る。私たちは、自分を神の子とすることはできない。私たちは、神が私たちに与えたもう関係に入らなければならない。いかなる人も、自分の意志や力で、神との友好関係に入ることは決してできない。人間的なものと神的なものとの間には、大きな深淵が厳在している。神ご自身が道を開きたもうときのみ、人間は神との友好関係に入ることができる」と。

2) 肯定的な事実

c. 「ただ、神によって生まれた」

「血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく」、そしてその後に肯定的な事実がこのように書かれています。「ただ、神によって生まれたのである。」と。この新しい誕生、また新しい関係は、すべて神のみわざ、聖霊の働きによるのであって、人間の思いや行いによるものではないということです。人間の力が働いたものではありません。では、この「ただ、神によって生まれた」という意味は何なのでしょう。神が私たちに生んでくださったとはどのようなことを意味しているのでしょうか。

このことをイエス様はこの福音書の3章で、ニコデモにこう語られました。3：3で「イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」、こう言われたイエス様は続けて5－6節でこう言われます。「5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」と。ニコデモはユダヤ人の指導者でしたから、旧約聖書をよく理解していました。ですからイエス様は、エゼキエル36：25－26のことばをもって、「水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません」と言われたのです。そして6節は、肉の誕生は私たちのうちに肉の性質を生み出し、霊の誕生は私たちのうちに霊の性質、御霊の性質を生み出すと教えています。

御霊の性質というのはガラテヤ5：22－23に書かれてあるとおりです。愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。私たちは新しく生まれるまで本当の意味でこのような性質を持っていませんでした。私たちが肉的に生まれた時、持っていたのは罪の性質だったのです。ヨハネはIヨハネ3：8で「罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。」と述べています。私たちは罪の性質を持って生まれてきました。きょうのテキストのヨハネ1：13に「ただ、神によって生まれたのである」とあるように、新しく生まれることは神の恵みによって救われることです。そして、この新しく生まれることを経ることなく、私たち人間が神の子とされることはありません。神の子とされるためには、私たち人間は新しく生まれなければならないということです。パウロはIIコリント5：17で、「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」と述べています。また、ローマ8：14「神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。」、ヨハネもIヨハネ3：1で「私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たちは神の子どもです。世が私たちに知らないのは、御父を知らないからです。」と述べています。

4. 新生の内容

この新しく生まれる——「新生」について少し考えてみたいと思います。この新しく生まれること、「新生」は、サタンに支配されていた罪人が神の子どもとなる霊的な生まれ変わりです。先ほども読みま

したが、ローマ 8 : 14 に「神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです」と書かれてあります。「御霊に導かれる人」は、「御霊に支配されている人」の意味です。そしてそのような人々は、神との正しい関係に入れられた人々です。正しい関係に入れられた人々は、すべての人が神の子どもとされ、神の家族としての権利が与えられるということです。そして、このローマ 8 : 15 の後半には「私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。」と書かれています。何度も言っていますが、私たちは聖霊の働きによって新しく造り変えられ、そして神の子どもとされました。神の子どもとされた私たちは、父なる神を「お父様」と呼ぶことができる者になったのです。ここに「アバ、父」ということばが記されています。ここ以外にほかに 2カ所、このことばが使われています。マルコ 14 : 36 とガラテヤ 4 : 6 です。マルコ 14 : 36 は、ゲッセマネの園でのイエス様の祈りのことばです。イエス様はこう祈られました。「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」と。十字架に架かれる前のゲッセマネの園でのイエス様の心のうちを私たちは 34 節から知ることができます。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです」。これから十字架に架かろうとされているイエス様は孤独でした。そして深い苦悩の中にいました。そのイエス様が父なる神に「アバ、父よ」と呼びかけるのです。このイエス様の祈り、それは父なる神との親しい交わりを表しています。私たちも父なる神を「アバ、父よ」と呼ぶことができるということは、私たちも父なる神との親しい交わりの中に入れられたということです。それは、私たちは神との正しい関係、また親しい関係にあるということです。違うことばで言い表すなら、まさに神の子どもとされたということです。私たちが父なる神を「お父様」と呼ぶことは、イエス・キリストを主と呼ぶことと同じように、私たちのうちに住まれる御霊なる方の働きです。私たちは今、「天のお父様」と呼べる、そのような者になりました。

5. 「神の子ども」としての特徴 I ヨハネ 3 : 9 - 10

そして最後に、神の子どもとされた者たちの特徴を見てみたいと思います。I ヨハネ 3 : 9 - 10 をお読みします。

I ヨハネ 3 : 9 - 10

「:9 だれでも神から生まれた者は、罪のうちを歩みません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪のうちを歩むことができないのです。:10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。」(新改訳第二版)

この 9 - 10 節を通して、私たちは神の子どもの特徴を三つ見ることができます。

1) 罪を離れる 9 節

まず一つは 9 節に書かれてあります。「罪のうちを歩みません」というのは「罪から離れる」ということです。これが一つ目の特徴です。これは、罪を習慣的に犯し続けないということです。神の子どもであるクリスチャンは、全く罪を犯さない者になったのではありません。皆さんも自分の生活を通して、クリスチャンも罪を犯すことをよく知っています。それは私たちのうちに、まだ古い性質が残っているからです。しかし、私たちが罪を犯した時、私たちのうちに住まれる御霊が、私たちに罪による悲しみを教えてくださるのです。「神の聖霊を悲しませてはいけません」と、パウロはエペソ 4 : 30 で述べています。そして、9 節を見てみると、「なぜなら、神の種が私たちのうちにとどまっているからです。」とあります。「罪のうちを歩みません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているから」だと言うのです。

◎私たちが罪から離れる為に働くもの

私たちが罪から離れるために働く力があるということです。それは「神の種」です。この「神の種」は神によって与えられた新しい生き方の原則を表していると言われていています。では、その具体的なことはどういうことかというと、二つ考えられます。

a. 神から生まれた者に与えられる性質

先ほども言いましたガラテヤ5章に記されている御霊の実のことです。それが私たちのうちにとどまっているからだと言うのです。

b. 神のみことば

神のみことばが私たちのうちに、神の子どものうちにとどまっているからです。ペテロはIペテロ1:23でこう言います。「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わる事のない、神のことばによるのです」、「神のことば」が神の子どもたちのうちにとどまっているから罪から離れることができるということです。ルカ8:11には「種は神のことばです。」と書かれてあります。ペテロのことばにぜひ目をとめてください。ペテロは、Iペテロ1:15-16で「:15 あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。:16 それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない」と書いてあるからです。」と言っています。神の子どもとしての特徴の一つ目は、罪から離れるということでした。

2) 義を行う 10節

二つ目は10節を見ると、悪を行う者ではなくて、義を行う者だということです。この後ろの12節に、「カインのようであってははいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったからです」と書かれています。神の子どもは義を行う者です。これが特徴の二つ目です。

3) 愛を実践する 10節

三つ目はIヨハネ3:10には「兄弟を愛さない者もそうです」とあります。これが悪魔の子どもの特徴ですよね。ということは、神の子どもの特徴は兄弟を愛する者だということです。それは愛を実践する者だということです。この10節には、愛の行為が詳しくは書かれてありません。この愛の行為、愛を実践するその姿が、この後の16-18節に「:16 キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。:17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。:18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」と書かれてあります。ヨハネはこのように愛の実践の姿を教えています。16節では犠牲の伴った愛です。17節はあわれみの心を持って、相手を思いやる心を持って愛を示していきなさいと言うのです。そして18節は行いと真実をもって、それは正しい動機による、形に表される愛です。

神の子どもの特徴を今三つ見ました。罪から離れる、義を行う、そして愛を実践する。神の子どもとは、神によって新しく造られた者です。全く新しい生き方をする者となりました。それは罪の中を歩むのではなく、神に従って歩む者となったということです。やみの子どもではなく、光の子どもとしてやみを照らす者となったのです。そして神の家族としての、特別の権利が与えられたのです。

皆さんは今、神の子どもでしょうか？おひとりおひとりがもう一度自分に問うてみてください。きょうのこのメッセージを終えるに当たって、神の子どもとされた私たちは、どんな時にも「天のお父様」と祈ることができます。そしてこの祈りは、私たちに神の平安と喜びと感謝をもたらしてくれます。私たちは切に願うのです。この平安と喜びと感謝、これをすべての人に味わってもらいたい、こう強く願いませんか？